

米づくり情報 (NO. 3)

令和 8 年 7 月 31 日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況 (アメダス観測地：伊万里)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
7	1	24.8	24.2	28.4	27.9	22.0	21.3	97.6	288.0	15.6	4.0
	2	25.5	27.9	29.2	32.0	22.6	24.8	84.3	16.0	19.2	38.8
	3	26.1	29.5	30.0	33.9	23.1	26.0	59.0	0.0	23.5	42.7
	4	26.7	29.6	30.9	34.1	23.5	26.9	42.4	0.0	28.3	29.9
	5	27.2	29.3	31.6	34.7	23.9	24.6	39.1	0.0	32.3	58.3
	6	27.6	—	32.1	—	24.2	—	44.3	—	41.4	—

【7月1半旬～7月5半旬の気象概況】

- ・気温は、平年よりかなり高い。
- ・降水量は、7月7日から降雨が全くなく、平年比5%と非常に少ない。
- ・日照時間は、平年比139%と多い。

2 生育状況 (7月30日)

項目 品種(設置場所)	移植 日	年 次	草 丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉 齢 (L)	葉 色 SPAD	概 要 (平年との比較)
夢しずく 東山代町脇野	5/30	本年値 平年値 平年比(差)	88.6 92.4 96	460 372 124	12.6 12.6 (±0.0)	39.3 35.3 (+4.0)	・草丈は、やや低い ・茎数は、多い ・葉齢は、同等 ・葉色は、濃い
ひなたまる 松浦町桃川	6/19	本年値	61.6	433	11.8	40.2	※前年と栽培条件が異なる ため、前年値なし。

(耕種概要)

- ・「夢しずく」「ひなたまる」の耕種概要は稲作情報 No.1～2 を参照。

【情報田ウンカ類調査結果 (25 株あたり)】 (調査日 7 月 30 日)

品種	地域	移植日	トビイロ ウンカ (成虫)	セジロ ウンカ (成虫)	ヒメトビ ウンカ (成虫)	ウンカ類 (幼虫)
夢しずく	東山代	5/30	0	0	0	0
ひなたまる	松浦町	6/19	0	1	0	2

3 参考（平坦部 佐賀県農業試験研究センター）（7月30日）

米づくり情報(平坦部) 第5号

令和8年7月30日

佐賀県農業試験研究センター 本場

本年産水稻の生育状況（7月30日）

移植日	項目 品種	年 次	草 丈 cm	茎 数 本／㎡	葉 齢 L	葉色 SPAD	概 況 (平年または平均との比較)
6月18日	夢しずく	本 年	71.6	360	11.5	39.0	【気象】 7月23日～29日まで ◆平均気温…3.0℃高い ◆日照時間…長い(平年比163%) ◆降水量…少ない(平年比0%) 【生育】 ◆草丈 「夢しずく」、「ヒノヒカリ」、「ひなたまる」、「さがびより」はやや低く、「ヒヨクモチ」は高い。 ◆茎数 「夢しずく」、「ヒノヒカリ」、「さがびより」は少なく、「ひなたまる」、「ヒヨクモチ」は多い。 ◆葉齢 「ひなたまる」はやや少なく、「夢しずく」、「さがびより」、「ヒヨクモチ」は平年並み、「ヒノヒカリ」はやや多い。 ◆葉色(SPAD 値) 「ひなたまる」、「ヒヨクモチ」はやや淡く、「夢しずく」、「ヒノヒカリ」は平年並み、「さがびより」はやや濃い。
		平 年	72.9	412	11.5	39.2	
		平年比(差)	98	87	(±0)	(-0.2)	
	ヒノヒカリ	本 年	63.6	499	12.0	39.5	
		平 年	66.6	544	11.5	40.1	
		平年比(差)	95	92	(+0.5)	(-0.6)	
ひなたまる	本 年	64.2	504	11.7	41.4		
	平均(2か年)	66.2	394	12.1	42.1		
	平均比(差)	97	128	(-0.4)	(-0.7)		
6月19日	さがびより	本 年	62.5	470	11.7	40.6	
		平 年	63.9	539	11.6	40.0	
		平年比(差)	98	87	(+0.1)	(+0.6)	
	ヒヨクモチ	本 年	64.1	901	12.2	39.0	
		平 年	58.7	826	12.1	40.8	
		平年比(差)	109	109	(+0.1)	(-1.8)	
留意点	○「夢しずく」は幼穂形成期を迎えているため、中干しは終了し、穂肥診断に基づき遅れないように穂肥を施用する。						
	○「ひなたまる」「さがびより」「ヒヨクモチ」等の中晩生品種は、幼穂形成始期までには中干しを終了し、穂肥診断に基づき穂肥を施用する。その後は間断灌水に切り替える。						
	○病害虫発生予察情報予報第4号(8月の予報)で、普通期水稻では、紋枯病“やや多”、トビイロウンカ“やや多”、コブノメイガ“多”、斑点米カメムシ類“多”となっており、病害虫の発生状況に注意する。 農業技術防除センターの情報を参考にするとともに、圃場の観察により防除を的確に行う。						
	●病害虫に関する情報は以下のリンク(農業技術防除センター病害虫防除部)より確認ください。 https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html						

- 注1)「夢しずく」、「ヒノヒカリ」、「ひなたまる」は、6月18日移植の稚苗(播種期5/25、播種量 湿粳180g/箱)
 「さがびより」、「ヒヨクモチ」は、6月19日移植の稚苗(播種期5/26、播種量 湿粳180g/箱)
 2)栽植密度:「夢しずく」は、条間30cm×株間17cm、19.6株/m²(65株/坪)
 「ひなたまる」は、条間30cm×株間18cm、18.5株/m²(60株/坪)
 「さがびより」は、条間30cm×株間20cm、16.7株/m²(55株/坪)
 「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は、条間30cm×株間15cm、22.2株/m²(73株/坪)
 3)栽培管理:施肥法は県基準に準じ、防除他はセンターの慣行による。
 4)平年値は、収量について過去の全試験年次の標準偏差(σ)を算出し、±1σの外側にある年次を除く年次を対象にした、各項目の単純平均値。
 5)「ひなたまる」についてはR6年度から試験開始のため、過去2か年の平均値との比較。

【幼穂形成始期と出穂期】

品 種	幼穂形成期(1mm)		出穂期	
	本年(平年差)	平 年	本年(平年差)	平 年
夢しずく	7/27(-1)	7/28	未	8/17
ヒノヒカリ	未	8/4	未	8/27
ひなたまる	未	8/3	未	8/25
さがびより	未	8/9	未	9/1
ヒヨクモチ	未	8/14	未	9/5

※7/30 現在 「夢しずく」主茎幼穂長2.4mm程度

「ヒノヒカリ」、「ひなたまる」は確認できていない

4 今後の管理

1) 山間早植え水稻（5月上中旬移植）

- ・ 穂ばらみ期～出穂期となっている。
- ・ 最も用水量が必要な時期であるため、出穂 10 日後までは間断灌水の湛水期間を長めにとる。出穂開花期頃の干ばつは、不稔籾の増加の原因となるため、用水確保が重要となる。
- ・ 用水確保が難しい地域は、出穂後 1～3 日、出穂後 10 日～15 日、できれば糊熟期（粒を押しつぶすと粘り気の強い糊状となる時期）に重点的に走水を行い、被害の軽減に努める。

2) 普通期水稻「夢しずく」

・ 幼穂形成始期（幼穂長 1 ミリ）を迎えた圃場では、次の表を参考に穂肥診断を実施し、適切に穂肥を施用する。

《夢しずく 穂肥診断基準》

幼穂形成始期の 草丈(cm)	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量 (kg／10a)	
	群 落	SPAD-502	出穂前日数	幼 穂 長	窒素成分量	BB602
	3.0以下	34以下	22～20日前	1 mm	3. 0	18 kg
73cm以下	3.0～3.5	38以下	20～18日前	2 mm	3. 0	18 kg
	3.5～3.8	38～39	15～14日前	10～15mm	1.5～2.0	10～12kg
	3.8以上	40以上	晩限は止葉抽出終了まで		1.0以下	6 kg
73～79cm	3.0～3.5	34以下	20～18日前	2 mm	1.5～2.0	10～12kg
	3.5～3.8	38～39	15～14日前	10～15mm	1. 0	6 kg
	3.8以上	40以上	施 用 し な い			
80cm以上	原 則 と し て 施 用 し な い					

【穂肥診断の方法】

- ①幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ②葉色（群落・SPAD 値）を測る。
- ③上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
- ④施用量を確認したら、基準の施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。
- ⑤穂肥は、湛水状態で施用し最低 4 日間は止水し、落水しない

3) 普通期水稻「ひなたまる」

- ・ 梅雨明けし、高温と乾燥が続いている。深い亀裂が入り、土壌が白乾するほどの強い中干しは、断根につながるため、中干しの強度は、軽く足跡がつく程度の黒乾燥状態を保つ程度とする。
（用水の確保が難しい地域は、自然落水とし、水尻は完全に落とさないようにする。）
- ・ 移植後の大雨等でオーバーフローにより除草剤処理後の水管理が徹底できなかった圃場で、雑草の発生が見られる場合は、速やかに中後期除草剤による防除を実施する。
- ・ 紋枯病が多発する圃場や、多肥・過繁茂の圃場は発生消長によっては被害が大きくなる可能性があるため、基幹防除と発生状況に応じた臨機防除を徹底する。

・ 幼穂形成始期（幼穂長 1 ミリ）を迎えた圃場では、次の表を参考に穂肥診断を実施し、適切に穂肥を施用する。

《ひなたまる 穂肥診断基準》

幼穂長 1 mm時の草丈 (cm)	葉色 (SPAD 値)	穂肥施用量 (kg/10a)	
		窒素成分	BB602
77 cm未満	42 以上	1.5kg	10kg
	42 未満	3.0kg	18kg
77 cm以上	42 以上	施用しない	—
	42 未満	3.0kg	18kg

【穂肥診断の方法】

- ① 幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ② 葉色（群落・SPAD 値）を測る。
- ③ 上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
- ④ 施用量を確認したら、基準の施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。
- ⑤ 穂肥は、湛水状態で施用し最低 4 日間は止水し、落水しない。

4) 共通

佐農技防第 101-4 号
令和 8 年（2026 年）7 月 29 日

病害虫発生予察情報予報第 4 号（8 月の予報）

佐賀県農業技術防除センター

6 月 1 日～8 月 31 日の 3 か月間は農薬危害防止運動期間です。

農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理を徹底しましょう。

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)} 平年比	予報対象の病害虫 (抜粋)	
水稲 (早期)	紋枯病	並	  クモリカメシ 木ハカメシ	
	斑点米カメシ類	多		
水稲 (山間早植え)	穂いもち	やや少		
	紋枯病	やや多		
	トビイロウンカ	やや多		
	コブノメイガ	やや多		
	斑点米カメシ類	多		
水稲 (普通期)	穂いもち	やや少		
	紋枯病	やや多		
	白葉枯病	並		
	もみ枯細菌病	並		
	トビイロウンカ	やや多		
	コブノメイガ	多		
	フタオビコヤガ	並		
	斑点米カメシ類	多		
水稲全般	1. 斑点米カメシ類 水稲の出穂 10 日前までに圃場内及び圃場周辺の除草を行う。本年は多発生が予想されるため、穂揃い期と乳熟期（穂揃い期の約 10 日後）に薬剤防除を行う。イネカメシは水稲の出穂初めから穂を吸汁して不稔及び基部斑点米を生じさせるため、出穂前にイネカメシの発生を認めた圃場では、発生状況に応じて出穂期も防除を行う。 （令和 8 年 7 月 29 日付け病害虫発生予察注意報第 4 号参照） 2. 紋枯病 近年、多発傾向にあるため、各圃場における発生状況を確認し、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展する時期（液剤、粉剤の場合は出穂 20～10 日前を目安とする）に防除を徹底する。			
	1. トビイロウンカ 本年は飛来が断続的に認められ、飛来量も多いため、今後の発生に十分注意する。発生状況は、田植え時期、水稲の品種、地域、これまでの防除の違い等によって異なるので、発生予測図（共通図 1）を参考にして、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、幼虫ふ化揃い期の防除を実施する。 2. コブノメイガ 地域によっては、幼虫の食害が多いため、今後の発生に注意する。止葉を含む上位 3 葉への被害を防止するため、発生予測図（共通図 2）を参考にして、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで幼虫ふ化揃い期（発蛾最盛期の 7 日後）に防除を実施する			

（紋枯病）

- ・ 8 月の気象予報では、気温が高く、多発生条件となっている。
- ・ 近年、多発傾向にあるため、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展（垂直進展）する時期に防除を徹底する。（液剤、粉剤の場合は出穂 10～20 日前を目安とする）
- ・ 病斑が上位 3 葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。

(斑点米カメムシ)

- ・ 平年よりも発生が多く認められ、斑点米の発生による等級低下が懸念される。
- ・ 九州北部の 1 か月予報では、向こう一か月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の発生・活動に好適な条件が続くため、警戒が必要。
- ・ 圃場周辺の畦畔、休耕田、空き地等の雑草は斑点米カメムシ類の増殖・飛来源となるため、**除草作業を出穂 10 日前までに行う**。出穂直前以降の除草は水田内への斑点米カメムシ類の侵入を助長するため避ける。
- ・ **薬剤防除は乳熟期（穂揃い期の約 10 日後）を中心に行うが、発生が多い圃場では穂揃い期と乳熟期（穂揃い期の 7～10 日後）の 2 回薬剤防除を行う。**
- ・ イネカメムシの発生を認めた圃場では、通常の斑点米カメムシ類の防除に加え、発生状況に応じて出穂期の防除を行う。

佐 農 技 防 第 385 号
令和 8 年 7 月 29 日

病害虫発生予察注意報第 4 号

佐賀県

作 物 名： 早植え及び普通期水稻

病害虫名： 斑点米カメムシ類

1. 注意報の内容

発生地域： 早植え及び普通期水稻栽培地域

発生量： 平年より多い



クモヘリカメムシ成虫

2. 注意報発令の根拠

1) イネ科雑草地での発生状況

7 月 15～21 日に行ったイネ科雑草におけるすくい取り調査（18 地点）では、クモヘリカメムシの成虫・幼虫ともに平年より多く、ホソハリカメムシの成虫は平年よりやや多く、幼虫は平年より多かった（表 1）。これらは斑点米を生じやすい種であり、幼虫の発生も多いことから、今後も発生が多く推移すると考えられる。

表 1 イネ科雑草における斑点米カメムシ類のすくい取り調査結果（7 月後半調査）

	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		アスジカスミカメ		シラホシカメムシ類		ミナミアカメムシ	イネカメムシ	
	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	成虫	幼虫
本年（R8）	15.2	11.0	2.6	1.4	0.3	0.1	8.8	6.7	0.06	0.3	0
平年比	多	多	やや多	多	並	やや少	やや少	並	並	多	並
平年	2.9	3.0	1.9	0.5	0.2	0.5	13.3	7.6	0.03	0.02	0
前年（R7）	1.7	0.6	4.1	0.1	0.1	0.6	14.2	8.6	0.2	0.2	0

注）表中の数値は、すくい取り調査（捕虫網 20 回振り）における地点当たりの平均捕獲虫数。

平年値は過去 10 年（H28～R7）の平均値。

4) 防除対策の詳細は「佐賀県総合防除計画（佐賀県病害虫防除のてびき）」を参照する。

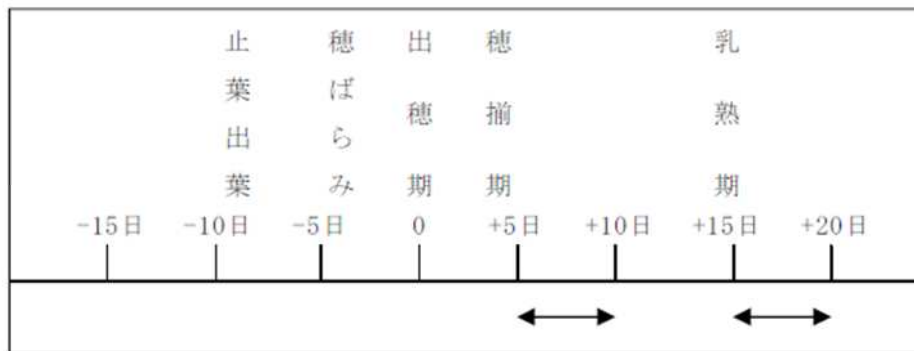


図1 斑点米カメムシ類の防除適期

(いもち病)

BLASTAM情報第5号(葉いもち感染好適条件の出現状況)(2026年7月26日更新)

月	日	佐賀					福岡			長崎	
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
6月	1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2日	●	●	—	●	●	—	—	—	—	●
	3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4日	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—
	5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7日	—	—	—	●	—	—	—	●	—	—
	8日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9日	●	●	—	—	●	●	—	—	●	●
	10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	11日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	12日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	14日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	15日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	16日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	17日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	18日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	20日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	21日	—	●	—	—	—	—	2	2	—	—
	22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	23日	●	4	—	—	●	●	●	●	●	—
	24日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	26日	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—
	27日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	28日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	29日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	30日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	?
7月	1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4日	—	—	—	●	—	—	●	—	—	●
	5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7日	—	—	—	—	—	●	3	—	—	—
	8日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	?
	10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	11日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	12日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	14日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	15日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	16日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	17日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	18日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	20日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	21日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	23日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	24日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- 1：準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)
2：準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)
3：準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15～25℃の範囲外)
4：準好適条件(湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
●：好適条件(湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した)
—：好適条件の出現なし
?：判定不能

・7月に入り好天が続いているため、感染好適条件は発生していないが、常発地帯では引き続き注意して圃場を観察する。

(ウンカ類)

表1 イネウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況(2026年)

月	日	トビイロウンカ				セジロウンカ				コブノメイガ						
		佐賀県		長崎県		佐賀県		長崎県		佐賀県						長崎県
		佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップ	佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップ	佐賀市 フェロモン トラップA	佐賀市 フェロモン トラップB	神埼市 粘着トラッ プ(20W蜜)	伊万里市 フェロモン トラップ	白石町 フェロモン トラップ	武雄市 粘着トラッ プ(20W蜜)	諫早市 フェロモン トラップ
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
	2日	0	欠測	0	0	0	欠測	0	0			0			0	0
	3日	欠測	1	0	0	欠測	0	0	0							0
	4日	0	0	0	0	0	17	0	1	0						0
	5日	0	0		0	0	0	0	1							1
	6日	0	1	0	0	0	1	1	0			0			0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0							0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0							0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0			0			0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0							1
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0			0			0	1
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0							0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0							1
	15日	0	0	0	0	0	1	0	0							0
	16日	0	0	0	0	0	1	0	0			0			0	0
	17日	0	1	0	0	0	1	0	0	0						0
	18日	0	4	0	0	0	4	0	0	0						0
	19日	0	0	0	0	0	1	0	1						5	6
	20日	0	8	0	0	0	4	0	0			0				44
	21日	0	0	0	0	0	0	0	1							8
	22日	0	0	0	0	0	1	0	0							12
	23日	0	0	0	0	0	2	0	0			0	2		22	6
	24日	0	0	0	0	0	29	4	0							11
	25日	0	0	0	0	0	47	0	0	0						1
	26日	0	1	0	0	0	106	4	0			0			10	0
	27日	0	1	0	0	0	11	0	0			0	1	0		1
	28日	0	0	0	0	0	4	0	1							0
	29日	0	0	0	0	0	1	0	0	0						0
	30日	0	0	0	0	0	3	0	0	0		0	3	0	1	0
7月	1日	0	12	0	0	0	7	1	2	0	0					0
	2日	0	11	0	0	0	7	5	0	0	0					0
	3日	0	2	0	0	0	8	0	0	0	0					0
	4日	0	22	0	0	0	46	2	0	0	0	0	4	0	4	0
	5日	1	3	0	0	2	32	0	0							0
	6日	0	99	0	0	2	111	0	0	0	0					0
	7日	0	25	0	0	0	32	0	1	0	0	0	0	0	4	0
	8日	0	3	0	0	1	5	0	0	1	0					0
	9日	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0					0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	0
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0
	12日	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0					0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2					0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	1	3	0
	15日	0	1	0	0	0	11	0	0	0	0					0
	16日	0	7	0		0	31	0		0	0					
	17日	0	9			0	67			0	1					
	18日	0	9			1	48			0	0	0	0	8	1	0
	19日	0	5			1	37			0	0					
	20日	0	5			0	6			0	0					

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査(回収日で集計)。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。6月1~2日の嬉野ライトトラップは、装置の不具合により欠測。

注2)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

- ・セジロウンカとトビイロウンカは6月16日~7月20日に断続的に飛来が確認されている。
- ・今後の飛来状況や圃場条件(移植時期や品種、圃場の場所等)によってウンカ類の発生量は異なるため、注意深く圃場を観察し、発生が多くみられる場合は速やかに防除を行う。

トビイロウンカ防除適期（例）

1回目 8/20～8/24

2回目 9/18～9/24

コブノメイガ防除適期（例）

1回目 8/8～8/22

2回目 9/11～9/26

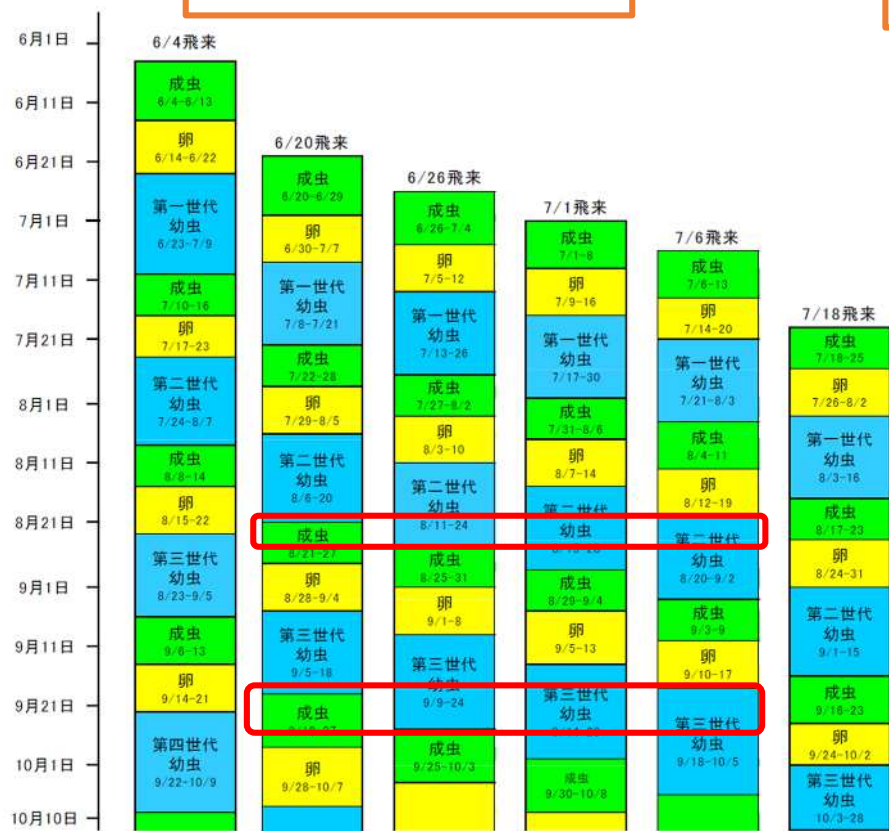


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第2版、2026年7月26日作成）



図3 コブノメイガ各世代の発生予測（第1版、2026年7月8日作成）

- ・ 圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量は異なるため、注意深く圃場を観察し（ウンカは稲の株元に定着します）。発生が多くみられる場合は速やかに防除を行う。

ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	 ：真横
トビイロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	 ：真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 （体側の色が濃い場合あり）	 ：斜め後ろ

	トビイロウンカ	セジロウンカ	ヒメトビウンカ
成虫			
若齢			
中齢～老齢			

西松浦農業振興センター

